



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	東洋大学大学院修士課程 S37年度
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1962
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77373
Type	manuscript
File Information	N031_01S37.pdf



NOTE BOOK

東洋大学大学院
修士課程

昭和三十七年度

IS
F
40

U.S.

1 10.00
2 10.40
3 1.00
4 2.40

INDEX

INDEX

PAGE

PAGE

四方面にわたって
学問に就いての心得を
いふ上での紹介と研究
世上で同じことなっている

三十四年とは研究上有用な概念法則
三十五年は余の著述の批判に答へて

三十六年とは余の著述の性質と意義の概説
しる。著者余の家族、村松、新市、
口氏兄弟の著述についての研究の要旨

三十七年とは今年に就いての感想をもちつゝ、も行
いながらつづいての著述の同様に紹介する。

又は何かわんといふ

今年が最も著り上げたり又は取り上げんとし
ては研究の同様にいつてもその大體を著
いつて下さう。ヤレても多くをこれに収めつ
て紹介をしなう。

研究に手はかけない
 同題を扱ふ

本年の講義の特色は、先
 研究に必要の文直接に應じ
 学生の希望に應じ、
 研究する項の説明を同じく
 四種材料とす
 1. 家族
 2. 村落
 3. 都市
 4. 口民社会
 九種の材料とは
 1. 統治
 2. 保安

研究する項の説明を同じく
 四種材料とす
 1. 家族
 2. 村落
 3. 都市
 4. 口民社会

九種の材料とは
 1. 統治
 2. 保安

1. 統治
 2. 保安

[illegible]

46 4 3 2 1

艺 音 经 法 道 宗
修 修 济 德 形

规 交 生 规 规 规
视 流 学 视 视 视
文 文 文 文 文 文
化 化 化 化 化 化

保神

基本

现代的重点

北平弘毅學	——	統治保安文化
北平弘毅學	——	交流文化

3. 交通

4. 通代

五
晉
事

6
竹葉

7
字
形

8 敬音

9 娛

10
白
級

(3) 革命

in my
to my
to

下

入
四
三
二
一

(2)

字報

道德知

芸
研
休

✓

(二) 民衆的におよぶ協力関係の各種

(1) 戦場における協力

12) 世帯なかけと場力

一職
カ
世
へ

(4) 世
一
か
可
丁
の

論
理

一

入
四
五
六

—

字報

正德知

芸
研
休

h
y
x
n
o
h

才一 家族に因りて
現在我々の死後の世界では何と云ふと未だ

にもその必要を述べこ
るべき家族の形をい
はす必要あり

一、直系家族より夫婦家族への移行の過程

の司理はしるべきこと。これ家族の形に
おのづからその形を決定し夫婦家族は

その外に、いふに、夫は、女は、いふに、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

夫婦の家族は、いふに、夫婦家族は、
たうは、いふに、三十、四十、五十、六十、

ついても
中口の農家の家族——学校より
共同生活

五月十五日

字同は概念の整理法則の玩見

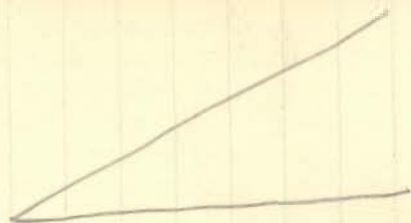
常規と非常型との
法則 概念の整理

の玩見

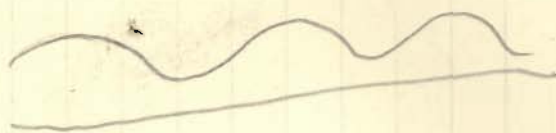
シニグとジンにつちかゝるハナ

一、時子
乙常型
二、空
乙同常型

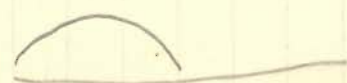
同種家族



直系家族



夫婦家族



時子's 進行事態

力三清

沖縄の山のりまのめ

夫婦家族の周期国型作製

家族の正常型と異常型の国式

(これは直系家族とい夫婦家族
にも考えられぬ)

乙都市生活環境と都市環境

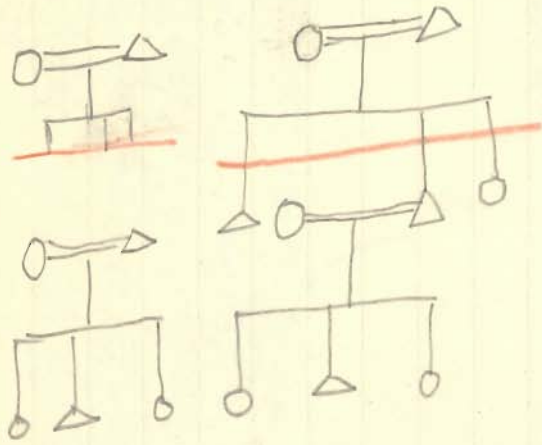
居住団体と家族型の現れ

東洋のかりー家族型の現れの現解

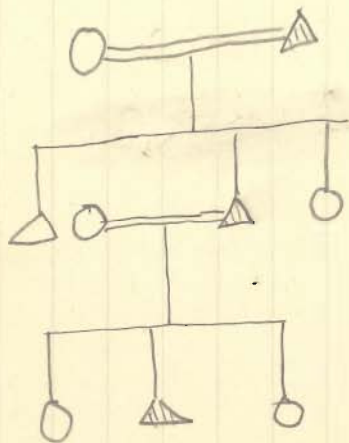
五月子

平均数は現実には存在しないが、数学的操
作によつて作り出されたこの数は、現実的現象の
虚数操作の上にある。重宝な概念である。
多正常型と多異常型も平均数と同じく
数学的操作用の上にある概念である。

直系家族より夫婦家族へ

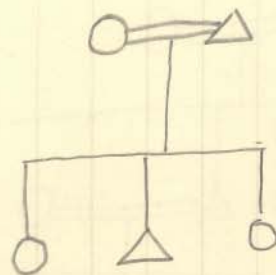


直系家族型



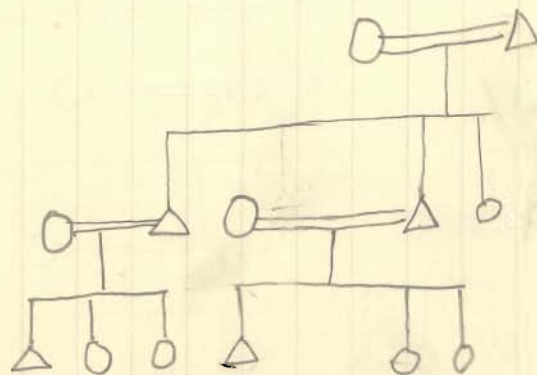
夫婦家族

才^四清 家族構成の同式化
(正常型。同式化)



同族家族

(1) 基本型



$$18 \times 3 = 54$$

$$(6+6) \times 3 = 36$$

$$3 \text{ 妻 } 9+9 = 18$$

$$3+3 = 6$$

$$1+1 = 2$$

110

高祖
男3子
男3子
男2子
男1子

(2) 同族
長子
中口

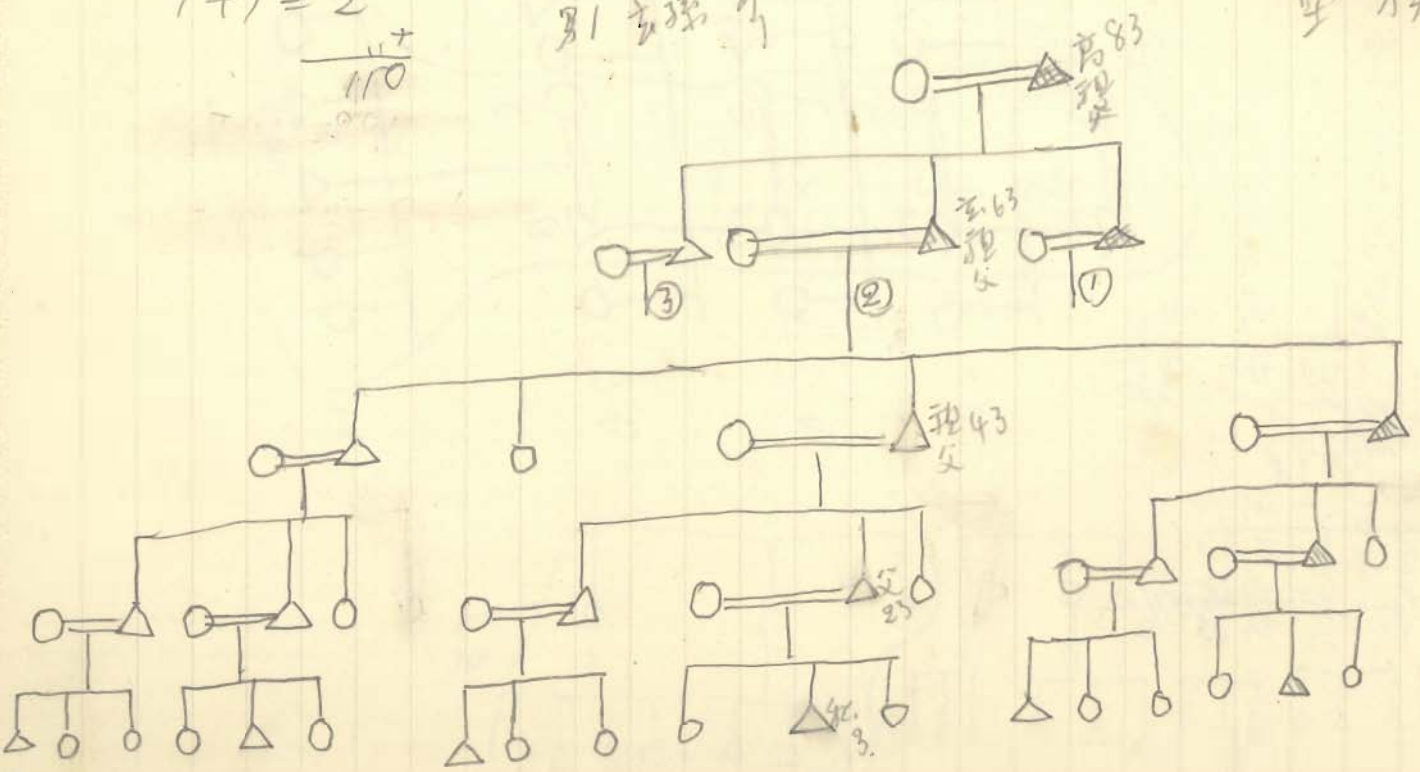
男1人

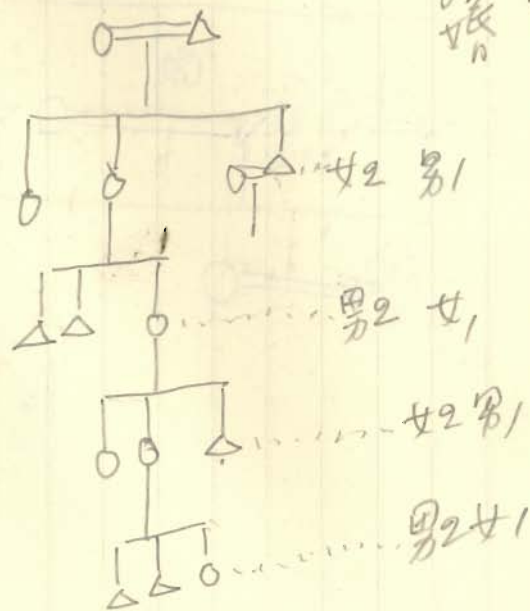
3人

9人

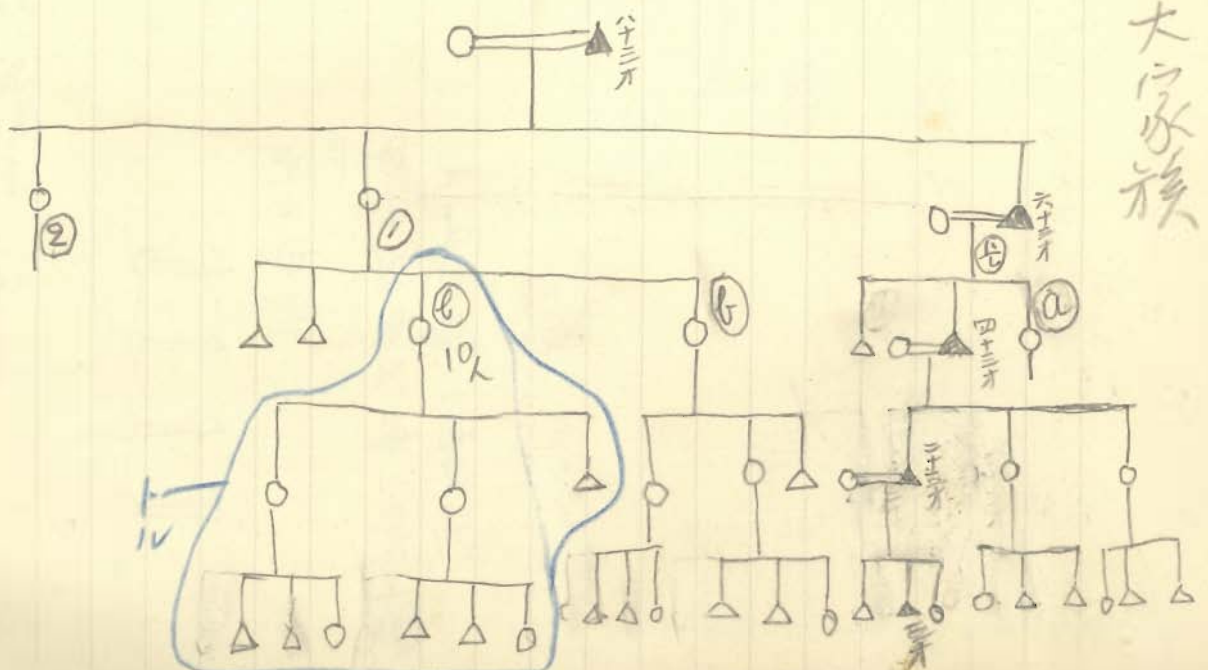
18人

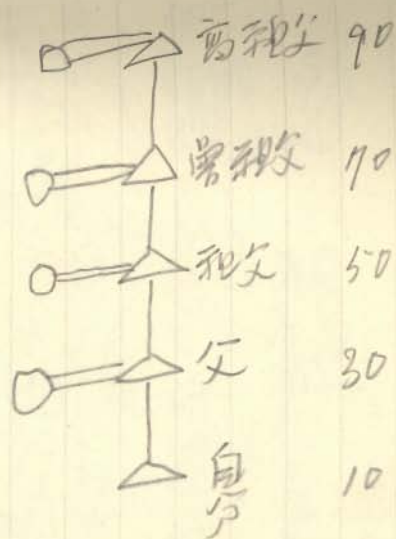
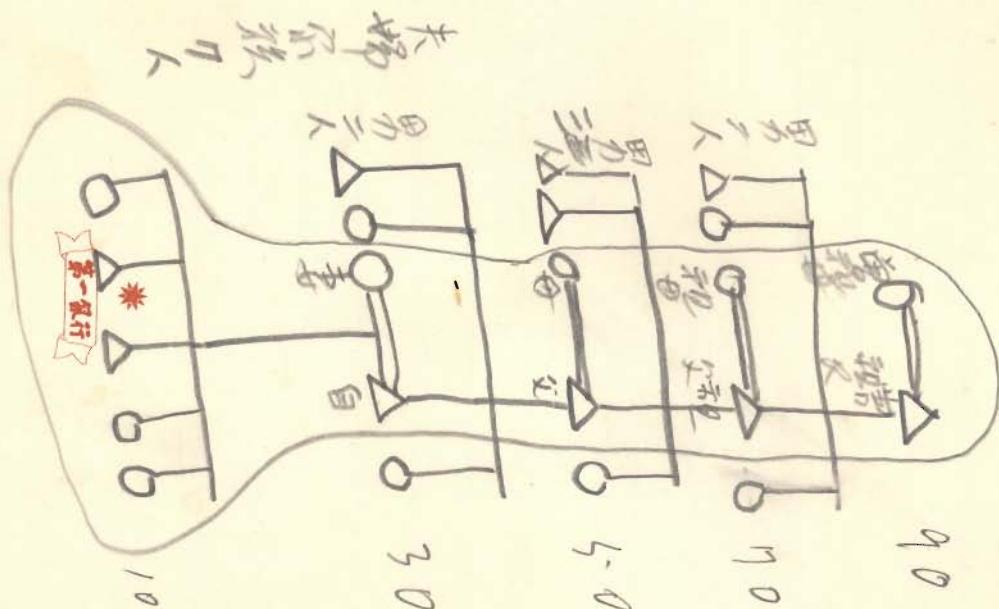
318人



[illegible]

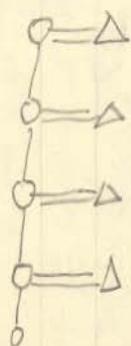
飛彈
白川村大家族





妻族 母族 父族 夫族
妻 母 父 夫
親 親 親 親

父系は縦に母系は横に
母系は世代毎に異なり
父系は世代毎に異なり



夫親父の血族、配偶者
三親父の血族、姻族

親族

六月五日
天
天

沖繩では二紀平野を近視めとし、水田

同居と云ふ
同居、生活の本拠と云ふ

施設 施設

共同生活

住居は家族の物質的絆組である。

領土は口縁共同生活の物質的絆組である。

集居は物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

これは集居の物質的絆組の物質的絆組である。

才田満 同居団体としての家族

#

一、家族生活にありあけの家族

家族生活の家族 村落及び都市と前記

家族生活の家族 村落及び都市と前記

二、都市の二元的構造

都市の二元的構造

都市の二元的構造

三、家族中にある家族

家族中にある家族

四、職場の便所である家族

職場の便所である家族

形式の家族 (家族を完全な手)

ア、ハーリー、寮、独身寮

ア、ハーリー、寮、独身寮

トンネル、長尾、従業員

三級サウス、家族の家族、寝室

住宅労働者

錯綜文化一掃化
王侯文化に代る

人生の大覺悟

大衆生活の安寧と健康

(文化の涅槃)

生きてゐるから生きている。死は不快な
はさけの死。死にまかせず死に生はあ
かしく生きてゐる。夢をあきらめ生
の。政治も職場も夢を捨てる。生
と思はれ、かゝる大衆の死。

同居関係と

五二ねからの都市生活の方向

夫婦家庭と職場

未婚者の家庭管理

老人の家庭管理

人の一瞥

政治は何故に生きているか、何の職場か、

生きているのは職場から職場の
いの生活へ
生きているのは政治から政治の
いの生活へ。

人間の交差する時期

五月二十九日

六月十二日

五々

最近の日本は同居同財であつた。近頃俄かに大変化をほしめた。

都市では取替の白人化は既に戦前から有つて
女子の乳母も我々白人から増え
然し白人の乳母も我々白人から増え
は我々白人から増え
おまゝ日本人のミットの中には同居同助の甚多あり
ていふ。

嘗ては共同主義の場であり共同主義の場であつた。都ては戦前に共同主義の場になつたが、共同主義の場といふは今も是れである。合戦性が確立をせぬものである。

今日本では直子家族形式の名残ありある。
かう同財団体としての家族が複雑な
お世の威をふさぐ。夫婦家族にな
つて来れば、同様にあり、原則的に夫が
家族を統制する。直子家族の形式は、
完全な世帯の同財団体形式の名残として
老父母がおり、下に十人以上の子、子の妻などあり。

同財団としての家族

親戚あり、家族外他人の私有財産税
家族共有財産の

所得の個人化
消費の個人化

かつて文字に於ける個人の概念は
「研究」と「工業」

同居同財 — 同居異財 — 異凡同
財 — 異居異財

(2) 上の意

私に
財
源
の
記
原
相
續
然
し
不
満
分
の
日
は

青の職人の
年の場の科
の独生は
立生多
親世に収
母分のた
の可大
観人種
の唯中
向文の
舞舞の
想和可

何人所得。其下、不同高低。
 最低賃金制
 最高賃金制

二水
か
う
の
見
通
し
に
よ
り
任
意
外

此の本を
 大に成
 儀に
 見よ
 べし
 職
 仕
 画
 作
 人
 の
 生
 活

社会主義の成るによつては
（組合主義）
社会主義によつては人の生活
組合主義によつては人の生活

華新の光

※ 我々も義により合法的に希望を実現せんとして、あゝ。

ハリークに所屬可

共 統 の 手 帳

宝 計 に

夫 弟 宗 統 義 夫 又 は 義 夫 の 幼 子 也 の
原 由 如 何 共 同 と 似 人 的 の 幼 子 也 の
子 供 何 故 か 独 立 考 計 す か。
機 関 の 記 号。

東北の女子の腰卸屋。五二には夫婦の外に夫婦が
居た。皆を支配した。家族は、今に夫婦は口宗管
理になら。家族は、皆を支配した。家族は、今に夫婦は口宗管
理の増大の希望が、少く、実現さる。あゝ。
たの二つの何れか、あゝ。家族による、他人支
配は、なりつ、あゝ。

主 義 者

勝 手 者

や 孝 道 徒

保 守 派 者 は 一 方 に 家族 制度 の 擁 護 を 叫 び
ながら、一方では、戦場の、他人を、敵の、方針を、傍
観して、二つ。こんな、予備の、家族を、何の中に、健
全な、ハリークナリ、一か、成る、さる、と、足は、ぬかぬ。

十 二 月
十 九 日
十 月 十 九 日
十 月 十 九 日

※

マクスウェルは日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

體は日本は資本主義の全

才六講 家と家本位制

より戦場本位制へ

家の概念 (行々基準としての)

一家は無限に存続するもの

家族はその個人的欲望と現存をキヤ

ルに家の現存に奉仕するもの

家族は家から出ていって其の力の社

的償付を實現するもの

おそれて家族の力は老えてい

四、家のために婦人は其の道に従

りて、凡そ家族は其の思ふよ

五、家の現存のためは富と名を

家人は富積するもの

家は家の經營と同じであ

うねかちあかきねは何か

的 又は表裏の意味上のい

2、 家務費の一人も家を代

表してゐる人の名が、
屋敷

七 一家をあげての物呉へあり居

辰之好

小栗園の研窓に宗祇墨数

不食少也 乃未

同居の親の存在による不貞罪発生
継父母の存在

六家の社会的位階は五七五

續々承へりし家々名々の總骨

12より決意する

七 宗の歴史的変遷はその宗族の

この一人を代表するもの

八
人
同
の
一
生
の
形
は
お
展
し
て
お

翠屏の

から

いかに人々を救ふやをのむべきの材を
いかに人々を救ふやをのむべきの材を

① ② ③ ④ ⑤
 ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

⑩ や家族構成に
おける

家内
事務
能

家本係制

家は旧有の皇國意識によつて相互拘束される日本人
の精神的發展過程、家精神

将来の傾向

二、以下七までの各項は、職場又は
口家記等の官職下におおま
かて行く傾向にある。
家族は一の機能丈のみに
存在理由がつくものと考
え、これよの七は右の如き存在
理由の山とに揃として認めら
れる。

農村

家族の機能

一、性慾充足の機能及び生殖の機能
二、生産消費共同関係としての機能
三、老幼病弱を保護養育としての機能
四、散居機能としての機能
五、散居としての機能
六、娯楽休息の機能としての機能
七、持其他社会的權利義務の責任
としての機能

六月廿九日

農村の家族機能について
この譯文と要論成立者の
手書

第七講

一 家族本位制より職場本位制へ
家族本位制は

一 祖先崇拝に因る。信仰と慣習

二 家族生活を理想とする生活の類型

とす。思想及び慣習

三 男尊女卑の思想 三徳の倫理

四 家族を社会生活の単位とす。慣習

及び制度

五 家の社会的地位を他人評價に

考慮す。慣習及び制度

六 結婚、死の習慣及び離婚に因る。

法律

七 宗教道徳保護即ち法の制定

八 絶家を禁止す。法の慣習及び法律。

家か先業同作であり先業同作であ
る。他人の生業はどの家の生業にか
か加へるかといふ事あり得た。男も女も他の
家毎に心算にあり、労働力に磨きつけられ
組織を造つてゐたから。

(九)

家の先人の死後に奉仕するものとしての
他人の徳徳のみが評價される事を

(九)

道義的縁座の目習の認められ

(十)

新婦をいせの嫁にする家におけ
る御女の位置は家より親戚の
はしりをつくるものよりかきしめ親戚
に生業をいせするものは見習ひにもあ
つてゐるが知しぬものと云ふであ

大に

今の夫婦家筋の記をいせ家として
たははぬと云ふか。兄夫婦の
家筋はありはる家上不可成
なり。生業のいせはなかつたが

古い日本では婦人の生業は強くな
かつた。サカ弱かつたはその為。

(十一)

支那のデシと日本夫人の生業除外、
何れも男の性占有のみ。

(十二)

家が先業の男をいせ人はいどの家にか
可成りいせ。結婚はこれから別の
家へ。

戦場本位制

此等は戦場をどう見ているか

1. 管轄を占めれば人は自然に戦場に行く可
さよと見ている。
2. 大才な戦場を安全で有利な生
活を保障すると思はれている。
3. 人の生活の地位は戦場の安全の地
位による。評價され、金が多。
4. 生かすは人界の地位。所縁は人界
位に考える。場合が多い。
5. 大名や名が割居して封建時代
の様に大規模な戦場を天下に割
居し戦場に居た者は人となつた
に思っている。社会である。

世人が

職場の内の生活

1. 他人の能力のみに応じて採用

2. 実力に応じて地位

3. 職場の業務本位に決定される職員の

勝手な配置 轉付

4. 地位に応じて勤務規定給与組織

5. 待遇の下の勤務規定

6. 勤務に応じて報酬と賞与

7. 職場の地位の上下と支配関係

8. 人を生活用具として考えよう

9. 人を生活用具として利用し金と交換する
(原則)

10. 富の分配は富の集積者としての人間の相互利用の社会と見よ社会制度

職場と家族の現代型

1. 離婚した女の例は家族内の変は
なくとも職場とアパートが彼女の
に生活の席をもちけい

2. 結婚しやすい社会

3. 親夫婦との別居を希望する部
じい女性

職場本位制社会の特性を分析

1. 個人単位社会

2. 相互利用社会

3. 力治者の社会

4. 勤め次第の社会

5. 強いつ婦人の社会

1 金の世の中

7 現金文化

(金銭文化、非伝統文化)

8 基幹職員

9 幸福なものの本位の世の中

10 幸福が集中する世の中

11 不幸が集中する世の中
(幸福分配の世の中)

12 金銭化しつつある世の中

過渡的現象

1 縁故主義の地位・重役世帯の世帯主

2 縁故関係の活用

3 職員系族の不幸への職場の援助

4 中流層の親が大層の就職希望を
示している現象——親は保守的、愛憎

的 鹿 子 自身はしつとライ

封建的社會關係の近代化

は本の能なるあり。親分子分關係の強韌
な存続力

鹿 鹿

資本、財力の代り
僱用の保身
人の紹介
村郷の接助

支 配、仁義的拘束（義理）

命令
権取

（六月二十一日）

後期

用請第一回

請書内容

沖縄の両方にも民衆の意見が
多くいわれている。福田氏は福文執
事の方への必要。相談には自電
又は手紙に。

(十月二日)

同質的の家
一民族一の家

④ 平均型の場合にも上の階層の人と下の階層の
人によつて統治され方は一様でない（例江
町電研所長と前江村市長の対比）江の島

（中心直線の例）

事例、江の島の場合、島内現在の実際、方面
員、役場の定住係員（P.H.I.とある）（本
中心の例）

その他江の島の物事によつて著しい場合の定住には
相当する

※ 江の島は社会文化としてあるといふのは、他人に
あつて居るものと本質的に異なるもの、ていつても又ある
と思はれるもの

江の島の存在理由は江の島を有する一人々又は有
る人に近い情熱のある人々の生活を見て江の島が
存在するといふ生活の中心としてあるか否か、何故に
江の島が文化があるか、あつて、現由が前よりか、
あつて、人の生活が、江の島が文化の中心である
か、江の島が文化の中心であるか、江の島が文化の中心であるか、

ヤ二回

江の島文化研究の主要問題

一 江の島統治の歴史

江の島統治の歴史

江の島統治の歴史

△ 平均型の江の島統治の歴史

下種別文化別、思想別

家族別、特殊な家族別

家族別、特殊な家族別

事例、江の島の場合、島内現在の実際、

家族別、特殊な家族別

江の島文化としての政治

江の島の統治機構、法制史、

江の島起源論、統治文化は他

江の島文化

政治文化の中心に

社会生活の中心を宗教的に道德的に
最高徳の人間組織として理想化して来
たキリスト教の形而上学的国家観に對して
批判的にたゞは解きつゝ自由法理論に對して
了強き正義感を持ち著しい社会主義的
政治的進歩的立場と有機的結合の精神が
シトマツ（著）の眼に窺はれる分業論多義論
官制の理想を優れたいものである
官制の理想に不足してゐた。

統治活動の
中央より地方へ及ぶ現象

その位を高くし、
よき知識を授け、
その大なる制限を
おとす。この制限は、
過る期に達するまで
は次の通りである。

その位を高くし、
よき知識を授け、
その大なる制限を
おとす。この制限は、
過る期に達するまで
は次の通りである。

その位を高くし、
よき知識を授け、
その大なる制限を
おとす。この制限は、
過る期に達するまで
は次の通りである。

